

「1.27ネバダ・デー」ヒロシマからのアピール

1951年1月27日、アメリカ・ネバダ核実験場で初めて核実験が行われました。それから33周年にあたる1984年1月27日、米国・ユタ州シーダー市の「シティズンズ・コール」(ジャネットゴードン代表)の呼びかけで、全米各地で反核集会が開催されました。イギリス・カナダ・マーシャル諸島などへも広がり、広島県原水禁もこの日、核実験全面禁止を求める国際連帯行動として、原爆慰霊碑前で座り込みを行いました。その後、この日を「ネバダ・デー・国際共同行動日」として核実験禁止に向けた行動が世界で取り組まれるようになり、以降、広島でも毎年、座り込み行動を続けています。

被爆者そして核兵器の廃絶を求める世界中の人々の念願であった「核兵器禁止条約」が、2021年1月22日発効しました。ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下から75年、世界は大きく核兵器の廃絶へと歩を進める権利を手にすることができました。

しかし、その道は決して楽観できません。米口間にあった INF 全廃条約はトランプ前米大統領のもとで破棄され、核戦力の増強・開発に向けた両国間の牽制が続き、昨年11月にネバダ実験場で臨界前核実験を行いました。新たに誕生したバイデン大統領の下でアメリカがどのような核政策を示すのかを見極めるとともに、ネバダ核実験場を閉鎖させることが、新たな核兵器開発をストップさせる道へとつながり、核兵器禁止条約が求める核兵器廃絶への大きな一歩になることを自覚し、運動を強めなければなりません。

そして何より、日本政府が直ちに「核兵器禁止条約」に署名・批准することを強く求めるとともに、そのための運動に全力を尽くします。「唯一の戦争被爆国」でありながら、多くの国民の声に背を向け、アメリカなど核保有国とともに、「安全保障政策上を理由」に条約に反対するなど、決して許されません。

核による、絶対の安全はありません。「あらゆる国のあらゆる核実験に反対」し、「反核・平和」「脱原発」など、核と平和の問題を訴え続けてきた私たち被爆地の市民は、「核と人類は共存できない」という先達の言葉を心に刻み、人類史上初めて原子爆弾の惨禍を被ったヒロシマから全世界に訴えます。

- ◆核兵器禁止条約の発効を活かし、核兵器の使用を許さず、例外なき核実験全面禁止を実現させよう！
- ◆ネバダ核実験場を閉鎖させよう！
- ◆日本政府に、早期に「核兵器禁止条約」を批准させよう！
- ◆東北アジアの非核地帯化と非核三原則の法制化を実現しよう！
- ◆世界のヒバクシャと連帯し、ヒバクシャの人権を確立しよう！
- ◆ノーモア ヒロシマ！ ノーモア ナガサキ！ ノーモア ウォー！

2021年1月27日

「1.27ネバダ・デー」市民行動